

ネパール政治ニュース (18年1月) ヘッドライン

政 治	
内政	<p>(1) 2日、ヤダブ選管委員長は、デウバ首相に対し、連邦上院選挙を2月8日に実施することを提案した。</p> <p>(2) 4日、首相官邸において、主要5政党の代表は、連邦上院議員選挙の日程、各州の州知事の任命、各州の州都の選定等について、協議を行ったが、合意を形成することができなかった。</p> <p>(3) 5日、政府は、連邦上院選挙を2月7日に実施することを閣議決定した。</p> <p>(4) 7日、KPオリ・ネパール共産党統一マルクス・レーニン主義派 (UML) 議長とダハル・ネパール共産党マオイスト・センター (MC) 議長は、KPオリ議長宅にて2時間の会談を行った。両議長は、両党統合のプロセスを数日以内に開始することに合意した。</p> <p>(5) 8日、バンドリ大統領はデウバ首相と会談し、各州の暫定的な州都の選定の後に各州知事を任命することが望ましいと述べた上で、知事任命に係る合意を促進すべく、各政党を含む全ての利害関係者と協議するよう述べた。</p> <p>(6) 10日、選挙管理委員会は、連邦上院選挙の投票までの詳細な日程について、1月29日に最終候補者名簿が発表され、2月7日(午前10時~午後3時)上院議員選挙が実施される旨発表した。</p> <p>(7) 11日、MCは、同党所属の9名の大臣及び7名の副大臣の政権離脱を決定し、12日にデウバ首相に通告すると発表した。MC所属の大臣は、昨年10月に既に無任所大臣となった後、閣議への出席を中止していた。</p> <p>(8) 12日、ギリラジマニ・ポカレル無任所大臣 (MC) は、MC所属の全閣僚の辞表とプシュパ・カマル・ダハルMC議長の書簡をデウバ首相に提出した。右辞表は12日の閣議に提出された。</p> <p>(9) 17日、UMLとMCは、タスクフォース会合を開催し、連邦上院議員選挙における議席配分を、UML29、MC14とすることを決定した。</p> <p>(10) 17日、ネパール政府は、各州の州知事及び州都を決定した。なお、州都はそれぞれ、第1州：ビラトナガル、第2州：ジャナクプル、第3州：ヘタウダ、第4州：ポカラ、第5州ブトワル、第6州ビレンドラナガル、第7州：ダンガディとされた。</p> <p>(11) 21日、州知事が任命されたのを受け、各州において、州知事の下で州議会議員の宣誓式を行った。</p> <p>(12) 25日、KPオリUML議長は、新政権が樹立した後、暫定内閣であるデウバ政権の決定事項をすべて取り消す用意がある旨述べた。</p>

外交	(1) 21日、ナレンドラ・モディ首相が、KPオリUML議長と電話にて会談した。両人の電話会談は、昨年12月以来2度目となる。オリ議長の私設秘書によると、モディ首相はオリ議長に対し、新年の挨拶を行うとともに、オリ議長がネパールの首相職に就いた後の同議長の訪印を待っていると述べた。これに対しオリ議長は、モディ首相の要請を受諾するとともに、モディ首相のネパール訪問を招請した。
----	---